

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105206
法人名	社会福祉法人 恵心会
事業所名	清谿園グループホームどんぐり
所在地	鹿児島県鹿児島市中山町5217番地 (電話) 099-263-1081
自己評価作成日	平成30年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が有する力を発揮しながら、日々の暮らしが自分らしく張り合いのあるものになるように、各種行事、レクリエーションを企画し、定期的に理学療法士の指導を取り入れ個別リハを行い、利用者様の気持ちを察したハートの籠った尊厳ある自立に向けた支援を行っています。その為には私たち職員はケアを振り返り、職員研修や認知症研修で学び生かす事で、ケアの質の向上を図り、季節感を取り入れた食事、環境作り、ご家族が足を踏み入れやすい、地域に根差した、安心出来る明るい施設づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・町内会に加入し総会や清掃作業に参加、どんぐり通信を回覧板に入れ介護の情報や相談を受けたり、認知症の介護支援の窓口になっている。地域交流会を開催し、地域に根ざした関わりが深まっている。
- ・利用者の残存能力の保持やメリハリのある支援が多く実践されている。リハビリ体操、趣味の委員会活動、野菜づくり、門松作り、楽しみの遠足、法人の夏祭りへの参加、花火大会、焼き肉パーティやお食事会、レクリエーション等、楽しい行事を取り入れている。
- ・職員の心のこもった介護サービスが実施され、敬老会や家族会は参加者も多く盛大に行われている。職員手作りのプレゼントや食事会等、充実したお祝いであり、家族アンケートも年1回実施し家族の意見が活かされている。
- ・職員は毎月の研修計画があり、自己研鑽に努めている。スタッフ研修、リーダー研修、委員会活動での発表、外部研修などに参加し、質の高い介護を目標に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	スタッフ皆が地域密着型サービスの意義を踏まえ、理解した上で理念を作成、共有し又スタッフ研修や朝夕の申し送り時に気づきや注意点等を伝達し、日々の実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念があり、職員の目に触れる場所に掲示し、パンフレットにも掲載している。毎日の申し送り時、全員で唱和、共有して日々の実践に繋げている。年度末に各自、自己評価で振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らされ続けるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方が施設に足を踏み入れる機会や気軽な介護相談の機会として地域交流会を開催した。又自治会に加入し地域散歩等でも顔馴染みの関係作りをおこなった。	町内会に加入し総会出席や回覧板で情報を得たり、どんぐり通信を回覧板に入れて介護について身近に伝えている。日常の散歩のあいさつや清掃活動・地域の文化祭へ出展、保育園児との交流もある。地域交流会を開催して介護相談を受けたり、敬老会には愛護会の子供達とのふれ合いもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や地域への回覧を通じ「どんぐり通信」を入れ、認知症の理解や施設紹介等している。又おたっしやクラブ等地域の方の見学や介護相談窓口としても広報している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>施設の活動を写真を用い出席者に報告を行い、利用者アンケート、外部評価、実地指導等に付いても報告している。又消防署員に災害対応等について意見を貰い避難等早めに行ない利用者が安心して暮らせる様に努めている。</p>	<p>会議は定期的開催し、ホームの活動状況を写真を用いて報告したり、外部評価結果報告や今後の取り組みを報告し、意見交換している。熱中症・感染予防、行事計画などを話し合っている。消防署員や警察官に参加依頼し災害や避難訓練等の指導や情報を聞き学習している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>長寿あんしん相談センターの職員の来所や訪問活動、市の相談員の派遣を受ける際等意見交換する事で、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当者とは役所に出かけたときに積極的にホームの活動などを伝えている。福祉事務所職員とも情報を共有するなど協力関係を構築している。介護相談員の受け入れや研修会にも随時参加し、サービスの質向上を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を定期的開催し、スタッフ研修で全職員が禁止となる具体的な行為及び不適切なケアを理解し身体拘束マニュアルを周知徹底することで実践できている。</p>	<p>身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、マニュアルを基に、拘束の具体的事例を挙げて言葉の拘束も含め研修を行っている。他に認知症研修を毎月開催している。日中の玄関の施錠はしていない。外出傾向のある利用者には見守りや同行を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、言葉による心理的虐待も含み、その中で討議行ない、スタッフ研修やミーティング等で発表研修行ない理解を深め防止に努めている。又身体拘束との関連も理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は研修等で学んだ内容をスタッフ研修をはじめ機会ある毎に学び理解し、情報交換、共有に取り組み実践している。必要時は市に相談した事もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に面談と見学をして頂き、疑問解消し、契約時再度十分な説明を行ない納得理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会での意見交換、外部評価アンケート、施設独自アンケート、意見箱等で意見要望を聞き、又普段の面会時等にこまめに声掛けを行ない、意見等言い易い雰囲気作りに努め支援の中に反映させている。	利用者からは日常の暮らしの中で思いを聞いている。家族には家族会や敬老会等でアンケート集計結果を報告し、意見交換したり、面会時に声かけし意見や要望などを聞いている。毎月、写真付きの手紙を送付したり、電話対応時に意見や要望を表せる機会を設けている。日常から意見を言いやすい関係ができており、意見は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ研修時に代表者の出席の機会を設けている。又代表者が施設を訪問する事も多く、必要時はその都度意見交換をしている。</p>	<p>月1回のミーティングや代表者参加の職員研修などで職員の意見を聞いている。管理者は日々の関わりでも声掛けし、必要時、個人面談を行い、職員も提案や相談できる環境にある。ハード面でウッドデッキ・椅子の修理や利用者の部屋変え・休憩室の確保・勤務調整など柔軟な対応が可能で働きやすい環境となっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>可能な範囲で連休や年休を取りリフレッシュにも対応し、必要時は時差出勤の相談にも乗っている。又代表者はスタッフが意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の力量を適切に把握し外部研修や内部研修に参加できるように機会を確保している。又代表者出席のミーティングに職員が複数出席し直接指導を受ける事を定期的に行なっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>谷山地区地域ケア会議や、各種研修での参加者同士の交流で、学んだ事や情報をスタッフ研修などで広報している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や訪問時施設の説明を行い、本人が自分の気持ちを話す事が出来る様な雰囲気作りを行い、本人の話に傾聴する事で基本情報を共有し気持ちを受け止める様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や訪問時丁寧に話しを聞き、家族の不安や疑問に答える事で安心して頂く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思い状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々にも状態に合わせ家事手伝いや意見を貰い作った食事を同じテーブルで共に頂き美味しいと褒めて頂き一緒に楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支援する事を念頭に置き、月1の家族への手紙で日々の様子をお知らせし安心してもらう中で、本人と家族がよい関係で家族も関わっていける雰囲気作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が入所前に利用していたクラブ活動の継続や、町内の方の訪問など交流を支援している。	家族の面会が多く、地域の民生委員や近隣住民の訪問もあり、クラブ活動を継続している利用者もいる。自宅近くまでドライブしている。家族の協力で理美容室に行ったり、墓参り・銀行・買い物・定期受診に出かけ、外食や外泊する等、関係性が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や特徴を職員がよく理解し、利用者同士が和やかな雰囲気の中で顔馴染みの関係が出来、居室でお茶飲みや談笑、ゲーム等共同生活を楽しまれている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも時折電話や会う機会等にその後の様子をお聞きし相談なども聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の支援の中で職員が聞いたり気づいたりする情報や家族からの情報要望をまとめカンファレンスで話し合い思いや意向の把握に努めモニタリングで再検討している。	利用者の表情や気づきを、ミーティング時に話し合い、情報を把握している。日々の申し送りノートから情報を確認し、1人1人の入居者が満足し、安心した生活が送れるよう思いや意向の把握に努めている。困難な場合は表情や行動・発声・生活歴を踏まえ話し合い、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後の面接時家族や本人からセンター方式を活用して暮らしぶりや嗜好等詳しく情報収集を行い支援に生かしている。気になることが有ればその都度家族に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の心身の状態や持てる力を日々の日誌やチェック表に残す事で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時カンファレンス、担当者会議、スタッフ研修、ミーティング等の意見を活用し、利用者の意向に沿い意向を察した計画書を作成している。	本人や家族の希望や意見を聞き主治医の意見も入れて、介護計画を作成している。一人一人の全ての情報をアセスメントし現状に即した課題、具体的に短期目標、長期目標を設定した介護計画を作成している。3ヶ月に1回のモニタリング、6ヶ月で担当者会議を行い見直しをしている。状況変化時は随時見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の飲食摂取量チェックや暮らしぶり、状態変化等個別に記録、申し送り、記録ノートを活用し、介護計画見直しの資料としている。勤務前のノートの確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や家族の都合により、スタッフの方で、受診通院の支援、又ドクターの指示による訪問看護の受け入れ等柔軟に対応している。食事においては、嗜好調査行い、代替えや食事形態にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練には地域の消防署員の参加をお願いしたり、動物園や近くの市の施設へ出かけレクリエーションを楽しんだりして心身機能の低下防止に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の要望で入所前のかかりつけ医は継続しており、家族に受診の協力を貰う事が本人と家族のコミュニケーションにもなっている。家族を介してかかりつけ医とも連絡を取り、状況によっては専門医受診に付き添うこともある。	入所前からのかかりつけ医を継続し、定期受診は家族同伴である。専門医の脳外科や眼科などの他科受診は家族の了解を得て、職員が同伴し報告をしている。月2回訪問リハビリや歯科往診もある。協力医と協力関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常的に同敷地内の看護師に相談及びアドバイスを支援に取り入れ、必要に応じて医療への連携に結び付けている。医師の指示で居宅管理指導を受け入れアドバイスを受けたこともある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には基本情報を提供し、病院関係者と情報交換を行い安心して入院できる環境作りの支援を行い早期退院に努めている。退院時は地域連携室より介護支援連携説明を受け介護計画書を提出したこともある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>施設の終末期に向けた指針を設け、状態変化時に事業所の出来る事を十分に説明しながら、家族に終末期の考えを伺い、主治医と連携し、職員全員で情報を共有し、対応できる限界まで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針があり、入居時に本人・家族に説明して同意書を貰っている。状況の変化に応じて同意書も変えている。特別養護老人ホームも視野に入れ、家族との段階的な話し合いを行い、支援できる範囲まで対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>スタッフ研修全体研修時に急変や事故発生時の対応を学び、夜間に際して対応手順のマニュアル、連絡手順のマニュアルを作成している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を受け防災訓練等定期的に行い、地域への声掛けも行い参加も頂いている。又夜間を想定した訓練を行い避難方法の確認を行った。</p>	<p>年2回消防署立ち合いのもと1回は昼、1回は夜間に防災訓練を実施し、消火器の使い方や指導を受けている。地域住民の協力体制もある。マニュアルを作成して自主訓練を行っている。非常用としてレトルトご飯・水・缶詰と利用者各自のリュックを準備し医療記録やリハビリパンツ・新聞紙等の備品を準備し個々のリュックに名前を書いて災害に用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修を行い常に前向きな姿勢で職員間も気付いた時は注意し合える関係作りに努め、利用者の尊厳を大切に、勉強会でも再確認している。	プライバシー保護に関するマニュアルがあり、人権擁護に関する研修も年1回実施している。必要時に勉強会をして、自己決定しやすい言葉かけや対応について再確認している。トイレ誘導は大きい声で言わない、トイレの扉を閉める、居室はロックして入るが基本であるが、入居者の特性に応じた対応をしている。外出時の服選びも希望を聞いて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も強要せず、本人の希望、関心嗜好等表現できる雰囲気を作り、個人をよく把握し、個人に合わせた支援につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースにこだわり、その日の体調を尊重し天気の良い日は散歩や土いじり、行事やレクリエーションに参加して頂き充実した生活が送れる様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出の時や日常の中でもこれまでの生活のあり方に出来るだけ合わせ、本人の要望、家族の望に合わせおしゃれ等職員と一緒に考えている。衣類の不足分は家族にお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ケーキ作りに餅つき等季節の味覚を楽しむと共に、ウッドデッキ、お花見遠足と食事の場にも変化をつけ食事を楽しみ、食器拭きや、野菜の下ごしらえ等職員と一緒にやっている。</p>	<p>入所時、アレルギー調査や嗜好調査を行って代替食で対応している。嚥下機能に応じた形態できざみ・とろみ食や骨とりなど、気配りしている。行事食や中庭での食事・ウッドデッキでの喫茶・恵方巻きやクリスマスケーキ作り・餅つき・そうめん流し・外食等に出かけ楽しんでいる。利用者の個々の力量に応じて野菜の下ごしらえや食器洗い等、職員と一緒にやっている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>特養栄養士より献立の指導アドバイスを受けている。摂取不良者には食事内容の工夫をしたり、採血結果で不足がちな栄養を把握しながら食事水分のチェックを行い一人ひとりの状態把握している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>スタッフが口腔ケアの重要性を理解し、誤嚥性肺炎の予防に努め、声掛けや仕上げ等利用者に応じた歯磨きの援助をし、口腔内の清潔保持に努めている。歯科の居宅管理指導を受けている方もある</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のそれぞれのパターンを知りトイレサインを見逃さないよう誘導し可能な限りトイレで用をたし、気持ちよく排泄出来る事で排泄の自立に向け支援している。	排泄チェック表で個々のパターンを把握しトイレ誘導している。布パンツの利用者には排泄の有無を確認し、リハビリパンツ使用の利用者には尿量に応じたパットを使用する等、自立に応じた支援をしている。入居時にパット使用していた利用者が見守りでトイレ排泄できるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取、運動を考慮し、個別に排便チェックを行い、一人ひとりの排便パターンを知り必要時は主治医に相談している。	/	/
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	状態や本人の希望により入浴を行っている。好みのシャンプーや石鹸を使い、時には入浴剤も使いお風呂を楽しむ工夫をしている。又入浴を拒む方に対し言葉掛け、アプローチを工夫し、状態によっては足浴をする事もある。	基本的に週3回の入浴であるが希望に応じた入浴支援をしている。介助は1:1で羞恥心が強い利用者には同性介助で支援している。楽しんで入浴できるよう入口にお湯のれんをかけたり、炭酸力の入浴剤やみかん浴を時々試みている。入浴拒否がある場合、時間をずらしたり、声掛けを工夫したり、状況に応じて足浴をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	就寝時間はその方の生活リズム に合わせている。その日の気分 体調により寝付けない時は温か い飲み物やスタッフと会話したり、 寒い時は湯たんぽを昼寝に入れ る事もある。時には肩もみ等で 精神安定を図る事もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	医療記録に服薬記録があり、薬 の内容についてスタッフ全員で理 解している。服用時は複数のス タッフで必ず確認している。利 用者の状態に応じて、服薬しや すい薬の形態を主治医に相談し ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている	地域の文化祭への作品展示を目 標に、工作や裁縫等の製作に取 組んでいる。又昔を思い出して の料理作りや遠足等の行事参 加、日々のレクリエーションを 通して気分転換が図れる様に 支援している。台所の家事の 得意な方は、交代で食器拭き 等楽しめる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる ように支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	本人の要望及び体調に合わせ、 施設周辺を散歩する事で外 気に触れ、又地域の方々との 交流が図れるように支援して いる。又ドライブや施設行事 参加、家族と外食の機会等 外出支援を行っている。	年間行事計画に沿って、毎月 法人内で企画会議を行い花見 や弁当持参でコスモス遠足・ ぶどう狩り・水族館・動物園 などに出かけている。月1回 のドライブや日々の散歩など、 外気に触れられるよう支援 している。家族の協力で外食 ・買い物・外泊などの支援も している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望の物の買い物に同行したり、本人で支払いの出来る方はご自分で財布より支払いをして頂いたり、品物によっては家族の了解のうえ行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの連絡にはいつでも対応し、家族の了承のもと本人が要望されれば話される事もある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日光の強い時はカーテンよしず日よけ等を利用している。季節感や常に取り入れ居心地良く過ごせ、不快な音にも注意している。必要に応じてエアコンの使用や、除菌清掃行っている。</p>	<p>玄関には校区文化祭に出品した手作りツリーの作品が飾っている。共用空間には仏壇やゆっくり寛げるようテレビやソファも設置され、畳部屋もある。室温や換気・採光が調整され、清潔で快適な環境となっている。壁には行事時の写真やクラブ活動での作品、コスモスの花のちぎり絵などが飾られ、生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳部屋や廊下のベンチ、椅子等で自由におしゃべりをされたりして過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅より持ち込まれた使い慣れた家具や装飾品、仏壇などを置き居心地よく生活されている。</p>	<p>居室には希望に応じて使い慣れたベットや身体状況に応じたベットを設置し、エアコン・クローゼットが置かれている。寝具類や丸テーブル・椅子のセット・ラジオ・ぬいぐるみ・米寿のお祝い額など、家族と協力して、本人が居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室内でのその方の動線や身体状況を考慮した上でベッドや衣装ケースなどの位置をきめ、杖の置き場所なども工夫している。ポータブルトイレの位置も自力で使用できる方は位置も考えている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない